

森林吸収源インベントリ情報整備事業 現地講習会（茂木会場）

開催地：栃木県茂木町（格子点 ID 090390）

開催日：2010 年 9 月 13 日（月）

講師：金子・池田・松浦・志知・古澤・篠宮・今矢

参加者：森・中村・半田（日本ミクニヤ），増田・鈴木・藤本・荒木・堀部・加藤（クリタス）

研修：綿野（静岡県），南光（特別研究員）

オブザーバー：松崎・崎野（ツインリンクもてぎ）

概要

民間団体の調査担当者を対象として、枯死木・リター・土壌の炭素蓄積量調査の実技講習会を行った。今回は、講習地として実際の調査地点でもある本田技研工業社所有のクヌギ・コナラ林（ID 090390）を使わせていただき、主に調査経験が少ない人向けの講習を実施した。講習会当日は9月中旬とは思えない暑い日であったが、心配された雨も講習開始までにはやんで順調に進めることができた。



午前は、枯死木調査と堆積有機物量調査および土壌炭素蓄積量調査の方法について、実技を中心に講習を行った。受講者は東西南北4方向の調査地点に分かれ、実際に土壌断面を掘るところから始めて、断面の整形や野帳への記載をはじめ試料の採取等に至るまでの作業を自分で行いながら、調査の基本から説明が行われた。午後は、代表土壌断面調査について調査法の説明を中心に講習し、土壌型の判定まで行った。粒状構造等の特徴から、土壌は適潤性褐色森林土偏乾亜型（Bd(d)）に分類された。本来は、代表断面についても実技を伴う講習が必要であろうが、1日に限られた講習では時間的に困難であることから、やむを得ないところである。

調査地はクヌギとコナラを中心とした落葉広葉樹林で、集落にも近いことから人為の影響が比較的強いところと思われる。代表断面では、深さ70cmから110cmにかけて約32000年前に噴出・堆積したとされる赤城鹿沼テフラ（Ag-KP）が挟在していたが、4方向の断面では深さ40cm以内にAg-KPが出現するような地点もみられた。また、表層の土色も黒みがやや強いところから淡いものまで4方向でかなり異なっていた。これらのことは、かつて



調査地点付近で人間による土地利用のために、表層土壌が攪乱されていることを示すものであろう。このように、ごく近い地点でも土壌断面の様子が大きく異なることもある、ということを実感できたものとする。

2010 年の夏は日本列島の広い地域において猛暑小雨であったが、その影響のためか土壌表層では試料の水分を感じられないほど乾燥していた。このため、土色や土性などの説明では、土壌に水をスプレーして軽く湿らせてから判定することが必要であった。

日程

- 9:00 集合（ツインリンクもてぎ北ゲート）
移動 ID: 090390 調査場所
- 9:20 調査概要説明
- 9:35 枯死木調査法
- 10:00 堆積有機物及び土壌炭素蓄積量調査法
- 12:30 昼休み
- 13:30 代表断面の見方
- 15:30 講習会終了、解散

